

イノベーションへの挑戦

グループ会社特集第一弾

関電新聞では不定期で関西電力のグループ会社について特集していく。第一弾の今号で取り上げるのは「関西エネルギーソリューション(Kenes)」と「ゲキダンインノ」。歴史の長さも事業も全く異なる2社のイノベーションを紹介する。

関電エネルギーソリューション (Kenes)

2001年に関電ガス・アンド・コージェネレーションとして発足した関電エネルギーソリューション(Kenes)は、「総合エネルギーサービス事業を通じて、卓越した技術力を発揮し、お客さまの幸せと社会の持続可能な発展に貢献する」という経営理念のもと、お客さまの多様なニーズに応じた最適なソリューションの提供を行う。

お客さまの多様なニーズにお応えしつつ、脱炭素実現をサポート

Kenesは、各種サービスの提供を通じて、お客さまと社会の脱炭素実現に向けたサポートを行っている。メイン事業である「ユーティリティサービス」では、法人のお客さまのエネルギー関連設備の設計・資金調達・建設から完成後の運転・保守管理までを一貫してKenesが担う。最新の省エネ設備の構築やエネルギーマネジメントの実施により、省エネと脱炭素の実現につながる。



■左から平塚さん、梅津さん、大崎さん

また、CO₂排出量の削減なく、お客さまのご要望に応じて、電力供給サービスの環境価値プラン「Kenes Green Supply®」や、関西電力と協力して提供している太陽光オンサイトサービス等により、脱炭素実現をサポートする。

おまかSave-Air

創立20年の節目でもある昨年7月、Kenesは新たなサービス「おまかSave-Air」を開始した。関西電力と共同開発したAI自動チューニング機能搭載の空調制御サービスであり、空調室外機の運転状況を常時モニタリングし、独自の制御ロジックにより、きめ細かな制御を行い、効率の良い運転をキープすることで、省エネと快適性の両立を実現する。



Kenesが試算したモデルケースによると、空調にかかる電気料金を約10〜20%削減できるという。初期費用は無料で、毎月一定のサービス料金を支払う仕組みだが、月額料金より省エネによる電気料金削減額が大きいく、実質費用負担なしでサービスを利用できる。

コロナ禍では、感染対策上、換気のために窓を開けたままエアコン稼働することで、電気料金が高くなるという課題がある。本サービスの導入により、室内の快適さを損なわずに空調の電力使用量を抑えられ、省エネ・脱炭素の実現に貢献できる。

大規模施設を対象としてきたユーティリティサービスとは異なり、本サービスは主に工場や学校、スーパー等の中小規模施設をターゲットに新たな市場開拓を志向する。本サービスの実働部隊である、空調EMSグループマネジャーの平塚進さんは「今後、お客さまから利用したいと言っています。」

従業員インタビュー

ただいまサービスとなるようアピールしてまいります。

今後は、おまかSave-Airだけでなく、太陽光パネルや蓄電池等の他エネルギー機器と連動した制御サービスを提供する準備もしている。

イノベーショングループ 梅津 亮太さん

私は新規事業の検討や立ち上げを担当しており、現在はおまかSave-Airや今後のシリーズ展開の検討に取り組んでいます。新規事業の検討には、未知の領域に飛び込む大変さがありますが、日々多様な知識を得ることによる成長と新鮮なアイデアに触れる楽しさがあります。お客さまや社会のエネルギーに関するニーズが急激に変化する中で、Kenesがニーズにマッチしたソリューションを提供し続ける最先端のエネルギーサービス事業者でいられるように、社内外から様々な助言を頂きながら、多くのソリューションを積極的に提案できるように頑張ります。

プラットフォームサービス 推進グループ 大崎 晃輝さん



私はクラウドやUI（システムの使いやすさや見た目）といったサービス提供基盤の開発を担当しています。今はおまかSave-AirのUI改良に力を入れており、慣れない業務に苦勞していますが、新事業に携われることに日々やりがいや喜びを感じております。将来的には、様々なサービスを連携させ、お客さまに選んでいただけるようなプラットフォームサービスの提供を目指しており、イノベーショングループと協力し、会社の基盤となるように取り組んでいきます。

ゲキダンインノ

ゲキダンインノは、経営企画室イノベーションラボから事業化した3社目の会社であり、時速5kmの自動走行モビリティ「iino」による、移動空間サービスを提供している。本事業は当初、関西電力グループの若手ネットワークであるk.hack(※)のメンバーを中心に2017年に開発がスタート。現在では関西電力からの出向者やイノベーションラボのメンバーに加え、建築士やデザイナー、ロボットやシステム、ハードの各種エンジニア等の多様なメンバーが集まっている。

2月、神戸三宮で実証実験



■iino(type-S712)イメージ

ゲキダンインノは、人間が歩く速度とほぼ同じ、時速5kmで走行する。この速度だからこそ感じられる空間の演出、その場所での体験で、きないコンテンツの提供により、利便性のみならず、娯楽性や快適性も兼ね備えた、これまでになく移動を実現し、走行する場所の魅力を一層引き立てる。

2020年10月には、大型商業施設等の敷地内や、都市における歩行者エリアで活用する「type-S」



■iino type-S

Kenesは、多様なお客さまのニーズにこころをく、新規事業の創出にも力を入れている。20年に亘る事業活動を通じて蓄積されたノウハウや知識があるからこそできる「イノベーション」だ。今後も「エネルギーのプロフェッショナル」として、新たなお客さま価値の創造に挑戦し続ける。

type-S712の乗客数は2、3人で、歩道を歩行者と共存しながら自動走行する。環境性や曲線デザイン、加工のしやすさから、木材を使用しており、コンセプトは「動く家具」。2022年度の道路交通法改正によりモビリティの公道走行が規制緩和されることを見据えて開発された。

また、単なるモビリティの乗降場に留まらない「情報発信」「休憩施設」さらなる回遊を促す「結節機能」を備えた移動支援の拠点となるモビリティスポットも設置し、人が憩い、集えるような拠点の創出も目指している。

iinoへのこだわり



iinoは、関西電力グループアカデミー茨木研修センター内にある作業場(通称「モビリティセンター」)で開発される。当初はモビリティやものづくりの知識もなかったメンバーが、自動走行システムのソフトウェアやデジタル木工加工機等を用い、多くの部分を直営で開発している。「ユーザーに新しい体験を提供するため、まずは実験してみることを大切にしている。直営であればスピーディかつ繰り返し実験ができる。知らないことであっても、『やってみよう』という意志さえあれば意外とできる」とクリエイティブ・広報戦略担当の財津和也さんは語る。



■デジタル木工加工機で作業する財津さん

座長・嶋田悠介

ゲキダンインノでは、職務執行者は「座長」と呼ばれている。今回の実証実験への思い等について、座長の嶋田悠介さんに話を聞いた。

ゲキダンインノは「乗る人のエモーションをいかにかきたてるか」という演出を常に考えており、そこから「劇団」の名前が決まりました。時速5kmで移動するiinoは、歩行者の回遊性を高め、自由な空間を創出し、乗る人の知覚・想像力を高めます。この時速5kmというコンセプトは、試行錯誤の末、辿り着きました。

今回の実証実験では、「未来の街ってどうなっているのだろう」と実験参加者に想像してほしいと思っています。将来的には街に新しいモビリティの概念を落こし、移動体験のプロフェッショナルとして、街の回遊性・賑わいの創出に貢献できるよう取り組んでいきたいです。

iinoのように、またないプロダクトをつくるゼロイチのスタートアップでは、多様なスキルを持ったメンバーが必要で、今後、都市を中心としたパブリックスペースでの活動を進めていくにあたり、マーケティングやPR、ロボット、まちづくりの分野で活躍したいと思う人材を募集しています。興味を持った方はぜひ、僕らの実験センターに遊びに来てほしい。一緒にゲキダンインノを盛り上げましょう！



■ゲキダンインノの皆さん(一番右が嶋田さん)

ゲキダンインノは、今回の実験で得られたデータや知見をもとに都市や地域のコミュニティの再生・活性化につながる新たなサービスを開発していく。関西電力グループは、多様化するお客さまニーズに寄り添い、新たな価値の提供を行う「サービス・プロバイダー」を目指し、お客さまや社会の幅広い課題の解決に貢献していく。

会長インタビュー 榊原会長に聞きたい7つの質問



▲ 榊原定征 会長

※撮影時のみマスクを外していただきました。

2022年初回の関電新聞では、全社共通ポータルで従業員から募集した質問をもとに、榊原会長へインタビューを行いました。

Q. 社外目線で見た関西電力グループの強みと弱み、変えるべきと感じた社内風土を教えてください。

会長 電力を安定供給するために築き上げた、発電所や送配電網などの強固な事業基盤は、関西電力グループの強みです。そして、国民生活や産業活動を支えることにより、社会から得た信頼や尊敬は、極めて重



▲ 質問投稿者
関西電力 ソリューション本部
営業部門 法人営業第二部
阪奈和グループ 田中 昇平さん 他

要な財産と言えます。ただ、現下の厳しい競争環境下でどのように勝ち抜くか、その危機意識が社内の隅々まで浸透し切れていないと思います。

昨年は3つの大方針を定めた大きな変曲点となりました。「ゼロカーボンビジョン2050」「中期経営計画」を達成する「経営理念を精神的なバックボーン」として浸透させる。非常に高い目標ですが、実現できれば必ず且つての「輝ける関西電力」を取り戻すことができます。

そのためには、上意下達ではなく、ボトムアップの自由闊達に意見を言い合える企業風土に変えていくことが大事です。私もその風土づくりに貢献したいと思っています。

Q. 将来、どんな関西電力グループになってほしいですか。

また、就任当時の夢として「関西電力の復活を掲げられましたが、関西電力グループがどんな状態となれば、その夢が実現するとお考えですか。



▲ 質問投稿者
関西電力送配電
大阪支社 大阪北電力本部
守口配電営業所(設備形成)
石井 元気さん 他

会長 私が学生の頃、関西電力は「くろよん」建設という巨大な国家的プロジェクトを成し遂げました。この困難に立ち向かう「チャレンジ精神」、そして、当時の太田垣社長が提唱した「前垂れがけの精神」こそが関西電力グループの原点だと思っています。この原点を今一度噛みしめ、誇りを新たに「輝ける関西電力」を取り戻していきたいと思います。

そして、コンプライアンスを遵守する、持続的に成長する、自由闊達な企業風土で社員が生き活きている、さらに地球的な課題であるゼロカーボンを先導していく、関西電力グループがそういう状態になれば、その夢は実現していると思います。

Q. 会長は、よく「ボトムアップでどんな意見をあげてほしい」と仰いますが、意見が अगरらない場合はどうすればよいでしょうか。

また、意見を出させるためにどう取り組みればよいでしょうか。



▲ 質問投稿者
関西電力 御坊発電所 保修課
小杉 友也さん

会長 若い人が一番現場を知っており、問題意識を持っていると思います。だから、若い人が改善の種をどんどん提案してほしい。大事なのは、上司が、若い人が提案しやすい雰囲気をつくることです。そして、出てきた意見を頭から否定せず、できるだけ取り上げるようにしてください。

東レに入社し、研究所に配属された際、私は、研究開発に必要な装置の購入を上司に提案しましたが、金額が研究所年間予算の3分の1程度と高額であったため、最初は認められませんでした。そこで、本社の担当役員に直訴した結果、購入を認めてもらえました。若い皆さんは「自分が提案してもダメだ」と思いかもしれません。しかし、信念と執念を持って事に当たれば組織は動きます。是非チャレンジしてください。

Q. 会長が関西電力グループの若手社員に求める力・期待することは何でしょうか。



▲ 質問投稿者
関西電力
高浜発電所 タービン保修課
長沼 慶祐さん

会長 若い人は、まず、各自の分野でプロフェッショナルになることを目指してください。その上で、現場の状況に即した、当社が成長するための提案を、積極的に出すことが大事だと思います。

企業において上位下位の秩序は大事ですが、それを超えて会社のために動くことも必要です。前向きに、そして良い意味で秩序を破壊できる若い人が、関西電力グループの原動力になってほしいと思います。

Q. 会長が考える理想のリーダー像はどのようなものでしょうか。

質問投稿者：40代 送配電

会長 会社や組織のトップに立つ人は、まず、時代や会社の将来を読む「先見性」が絶対に必要です。国内外の企業人と交流し、色々なものを見て考える。そうやって先見性を鍛えることが大事です。

2つ目は、「意思決定をする勇氣」です。様子見という言葉で逃げず、今、自分が責任を持って決める勇氣。それもリーダーに必要な条件だと思います。

3つ目は、「部下を信頼する包容力」です。部下を信頼して仕事を任せ、責任は自分が取る。

最後は「適度な楽天性」です。哲学者アランの言葉にもあるように、意思があるから楽観できます。経営の意思に基づいてやってみようという楽天性も大事です。その代わり、責任はそのトップが取らなければなりません。以上の4つが備わっていれば、素晴らしいリーダーになると思います。

Q. 経営者として大切にしている価値観や想いは何でしょうか。

また、これまでのご経験の中で、判断に迷う場面に遭遇した際に、どのようにして答えを導かれましたでしょうか。その時に軸として持たれているものは何でしょうか。

会長 会社のトップという視点では、「企業の存続」そして「持続的発展」を第一義的に考えねばなりません。



▲ 質問投稿者
関西電力
広報室 広報企画グループ
梶木 孝さん 他



▲ 質問投稿者
関西電力 IT戦略室
情報通信技術グループ
宮前 好宏さん

「この会社で働けてよかった。達成感のある仕事できた」と思える会社にしたいとも思っています。そして、「雇用を守る」。これは、企業人としての最優先課題です。

最後は、「社会貢献」です。企業は、利益をあげ、社員に給料を払い、株主に配当させればよいの

ではなく、社会全体への貢献も心掛けるべきだと思っています。以上が企業人としての価値観です。判断の軸については、会社の長期的な利益に繋がるかという目線で判断することを中心掛けてきました。また、私個人のフィロソフィーとして、二択の判断に迷う時はチャレンジするのが私の人生、と考えています。困難で高い目標と、安全だが低い目標があれば、あえて困難な道を選びたい。そのほうが会社のためにもなり、個人の満足感も大きいと思います。

Q. 趣味は旅行とのことですが、今まで行った旅先で印象に残った場所やエピソードを教えてください。



▲ 質問投稿者
関西電力
ソリューション本部 CRM部門
大阪あべのコンタクトセンター
竹内 優太さん

会長 最も印象に残った旅行先は、エクアドルのガラパゴスの諸島です。高校の生物の授業でダーウィンの進化論の話聞き、いつかガラパゴスに行きたい、ダーウィンが見た生物の進化の姿を自分の目で確認したいと思っていました。そして、2006年、東レの社長時代に、ニューヨークでの仕事後、1週間の休暇を取りガラパゴスに行きました。

ガラパゴスには島が十幾つかありますが、強い海流により島と島の間は渡れず、それぞれの島が完全に隔離した社会です。何億年と隔離しているため、環境に心して生物も独自の進化を遂げています。「強いもの、大きいものが生き残るのではなく、環境に適合したものが生き残る」これはまさに企業経営そのもので、非常に勉強になりました。



▲ インタビュー：関西電力 広報室 インターナルコミュニケーショングループ 立石ゆり

榊原会長からのメッセージ

昨年、関西電力グループは「ゼロカーボンビジョン2050」と「中期経営計画」「経営理念」の3つの大方針を定め、グループの再生と成長に向けて、力強く新たな一歩を踏み出しました。ガバナンス改革やコンプライアンスの徹底など、信頼回復に向けた取り組みも着実に成果をあげつつあり、皆さんとの対話の中でも、再生への力強い決意が伺えるなど、大変心強く感じているところです。

本年は、これら大方針が示す進路に向かって、全員で取り組みを加速し、持続的成長を実現していくための重要な1年となります。

その大きな原動力となるのがイノベーションです。この実践なくして、中期経営計画において掲げた関西電力グループの一大改革「Kanden Transformation(KX)」を成し遂げることは不可能と言っても過言ではありません。

私たちの目指すイノベーションは、新事業・サービスの創出に限ら

ず、既存事業のオペレーション改革を含めた、あらゆる事業領域にまたがる変革を意味するものです。それは、お客さまとの接点に立つ皆さん、社内の実務に精通した皆さん一人ひとりが、自分事として本気で考え、懸命に努力を重ねてこそ、実現できるものと考えています。

かつて米国のケネディ大統領が、その就任演説の中で「国家があなたのために何をしてくれるかではなく、あなたが国家のために何ができるかを問うてほしい」と述べ、冷戦下での国民の一致協力を促しました。私も同じ意味で、あえて皆さんに「会社が自分は何をしてくれるかではなく、自分が会社になにができるか」と問いかけ、イノベーションへの奮起を強く求めたいと思います。

「自らが心からやりたい」と思っ

て取り組んだ仕事は、会社のためだけではなく、皆さん自身のやりがいにもつながり、やり遂げた時

の達成感もひとしおです。イノベーションの醍醐味はまさにそこにあります。皆さんの挑戦にかける熱い思いは、周囲や上層部を巻き込み、イノベーション実現への大きな力となって、さらに大きな実を結ぶことが期待できます。こうした取り組みを重ねることで、KX実現への道は必ずや切り拓かれると、私は確信します。

中期経営計画の最終年度である2025年度は、図らずも大阪・関西万博の開催年にあたります。私は、万博の大使を務めています。この世紀のイベントが最高の盛り上がりを示す中、関西電力グループが輝かしい飛躍を遂げ、関西・日本経済を力強くリードする姿を、世界中の人々に見てほしいと思っています。

グループの持続的な成長、将来の飛躍を目指し、ともに頑張っていくましよう。

私たちの経営理念実践 若手技術者のクロストーク

新たな経営理念が策定され、まもなく1年を迎えようとしている。経営理念を日々の業務でいかに実践していくか、それが関西電力グループの再生の鍵を握る。

今回は、関西電力グループの技術を守り、創る若手の皆さんに、理念実践にかける決意を語り合ってもらった。

皆さんの職場、業務における「あたりまえ」とは何でしょうか。

山本さん ラオスの現場にいた時、周辺住民の方、移転住民の方、現地雇用のスタッフの、日本産の品質に対する信頼が高いと感じました。高品質なダム・発電所をつくり、運営することが、現地の皆さんにとっての「あたりまえ」であり、私たちはそれを全うしなければなりません。もちろん、安全があるから高品質なものができる。安全に対して真摯に向き合う必要があります。日本では「あたりまえ」の安全意識が現地ではそうではない。この安全意識を变えることに注力しました。

源さん 私は、安全・安定な電力供給を通じて、地域社会の発展に貢献することが「あたりまえ」だと思っています。送電部門の役割は、発電所からお客さまへ電気を繋ぐこと。今の時期、雪害で断線事象等による系統事故が起きる可能性もありますが、早期に復旧し、お客さまに不都合がないようにしなければなりません。

宮本さん 当社（関西電力送配電）の送電部門でも海外プロジェクトがあるんですが、



ありますが、やはり、安全意識は日本とは乖離があるようです。安全意識を丁寧に伝え、現地の方から感謝されることもあり嬉しかったと、プロジェクトに携わった方から聞きました。

松本さん 高浜発電所は久しぶりの4基運転を控えており、それを若手社員も担わなければいけません。源さんのように、何が不安全行動なのかを具体的に説明することは「あたりまえ」の継承にとって大事なことで感じました。

源さん 私は、原子力を安全に運転し、ベールスロード電源として、電気を安定して届けることが「あたりまえ」だと思っています。関西電力グループが掲げる「ゼロカーボン」の目標を達成すること、そして、お客さまへの安定した電力供給を両立するために4基運転をしっかりとやる、それが「あたりまえ」を守るために重要だと感じています。

香川さん 「お客さまや社会にとって納得感のある仕事をする」ことが「あたりまえ」に繋がっていると思います。

源さん 信賴回復のためには、一人ひとりの「誠実」が大切ですね。



関西電力
再生可能エネルギー事業本部
水力エンジニアリングセンター 海外水力グループ

やまもと ゆうき
山本 悠貴さん

2011年入社。
土木部門。朝来電力所で勤務した後、現在に至るまでナムニアップ1（ラオス）の設計、現場工事、運営に携わる。



関西電力
姫路第一発電所 保修課

みなもと しおり
源 史織さん

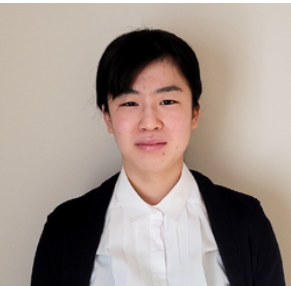
2012年入社。
姫路第一発電所で当直勤務を経験後、現職場にて電気設備に関する保修業務に従事。
現在は予算業務を始め、設備の工事計画や工事発注を担当。



関西電力送配電
工務部 送電グループ

みやもと よしこ
宮本 義子さん

2015年入社。
野江電力所にて架空送電の保守業務に携わった後、大阪北電力本部や電力システム技術センターを経て現職場に。
現在は、設備の予算業務を担当。



関西電力
高浜発電所 タービン保修課

まつもと たから
松本 宝さん

2020年入社。
キャリア採用（前職は高校教員）。
入社後は発電室で発電勤務を行い、現在はタービン保修課に勤務。



関西電力
ソリューション本部 営業部門 法人営業第一部
エンジニアリンググループ（産業）

かがわ あきお
香川 晶央さん

2021年入社。
技術コンサルティング。
昨年12月まで法人営業第一部 阪奈和グループでエンジニアリング営業を担当。

■座談会に参加した従業員の皆さん

す。あるお客さまに提案を持っていったのですが、最初は信賴関係もなく、こちらの提案内容に全く興味をもっていただけませんでした。しかし、何回も現地調査に行き、資料を集めて、提案を繰り返していると、その姿勢に共感してくださり、私たちの提案に納得していただきました。

源さん 香川さんが意識されているような丁寧な対応が、電力自由化以降、特に大事なことになるとう感じました。本当に「ありがとう」という気持ちを心がけています。

源さん 香川さんが意識されているような丁寧な対応が、電力自由化以降、特に大事なことになるとう感じました。本当に「ありがとう」という気持ちを心がけています。

皆さんが、特に大切にしている価値観は何でしょうか。

松本さん 地元の方から「関電、頑張っているね！」とポジティブに言っていたんだけど、ためには「誠実」であることがいちばん大事だと感じています。挨拶といった日々の些細なコミュニケーションを大切に、そして嘘偽りなく相手に情報を伝えて、相手の話をしっかりと受け取る。真心をこめた対話をこれからもやっていきたいと思っています。

宮本さん 私も「誠実」を大切にしています。「納期が厳しいから」「手続きが面倒くさいから」と、社内や社外で定められている手順を守らずに仕事をしてしまうと、結果的に社会から厳しく非難されます。一人ひとりが、どういった状況であったとしても、決められたルールをちゃんと守ることが基本。それを念頭にどのような業務も誠実に取り組んでいます。

源さん 信賴回復のためには、一人ひとりの「誠実」が大切ですね。誠実な行動が実を結び、周りの方々の関西電力グループに対する考え方が変わったらいいいなと思います。

私は「共感」し、尊重し合うことが大事だと考えています。尊重する気持ちがないと、コミュニケーションが取れず、対応遅れや事故の発生に繋がる恐れがあります。協力会社の方々と互いに尊重し合いながら、良好なコミュニケーションを取っていただくことが大切だと考えています。

香川さん 私は、「共感」と「挑戦」です。

自分の言いたいことを一方的にお客さまに伝えるのではなく、お客さまの立場に立って「共感」し、双方のやりとりを大切にしています。

また、自分の価値を出すためには、「挑戦」をしていかなければいけないと思っています。業務以外でも興味があることには、意識的に飛び込むようにしています。やってみたいと分からないことはたくさんあります。営業の仕事も大好きですが、他にも経験したいことがたくさんあります。不安があっても、考えるよりも行動だと思っています。

山本さん 「共感が挑戦にも繋がっていく」という源さんの意見が、すごくいいと思いました。4つの価値観は相互に繋がりが、高まり合うというんですね。また、香川さんの「相手の立場に立つ」という言葉、とても共感できます。

私が特に大切にしているのは「挑戦」です。第2の「くろよん」と呼ばれた、ナムニアッププロジェクト自体が、挑戦を掲げたプロジェクトであり、手探りではありましたが、前向きに、何にでも挑戦できる環境でした。高品質で、安全・安心な設備をつくることは、今後もステークホルダーから求められるものとして、変わりはないですが、既存の考え方や技術にとらわれ過ぎず、DX等の技術を積極的に取り入れ、新しい設計、施工方法を検討することに引き続き「挑戦」していきたいです。

編集者のつぶやき

▼私には高校生の娘がおり、アイドルや漫画に熱中している。娘から人に薦めたいほど気に入っているものは「推し」と呼び、推しを応援する活動は「推し活」と表現するのだと教えてもらった。2021年の新語・流行語大賞にもノミネートされていた。先日「推し活」に密着するテレビ番組があったので、どんなものだろうかと見てみた。

▼印象的だったのは「推し活」に熱中する人たちは、生き生きとしておられ、それらを明日への活力にしていることだ。人生100年時代であれば、私はもうすぐ人生の折り返し地点を迎える。何か「推し」になりそうなものはあるかと考えてみた。応援したい存在はいらるが、積極的に活動を起こすこともなく、他者と共有することもない。豊かな人生を送るために「推し活」も悪くないかもしれない。

▼もう一つ思ったことは、「推し」をビジネスに活かす観点。本号の万博特集に掲載した、人気アニメ「エヴァンゲリオン」をモチーフにした新型電柱スマートポールは、一般紙にも取り上げられた。予想以上に反響があり驚いているが、「エヴァ推し」の方から広がり、人々の暮らしに「あたりまえ」の存在になっている電柱に興味を持つ方が増えれば有難い。我々の事業活動を知ってもらう方法はいろいろあるはず。固定観念にとらわれないようにしたい。